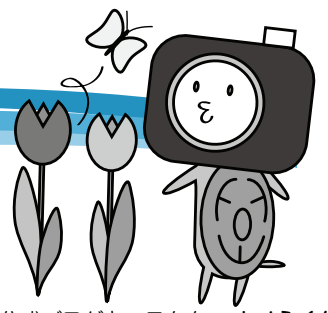


できごと

まちの話題



水戸市公式ブログキャラクター カメラくん

掲載した写真をご本人に差し上げています。ご希望の方は、みとの魅力発信課までご連絡ください。

4/28

～5/5
スプリングフェスティバル

ゴールデンウィークの期間中、市内5か所の会場で、「スプリングフェスティバルin水戸」が開催されました。

指導者の解説を聞きながら、植物をじっくり観察する森林公園の「春の植物観察会」、子どもたちを乗せて園内をのんびり走る植物公園のロードトレイン、地元の食材を使ったおいしいものを味わう「黄門さまの台所」など、参加した皆さんは、春のひと時を満喫していました。



子どもたちに大人気のロードトレイン



植物について熱心に勉強した「春の植物観察会」



地元の味を堪能した「黄門さまの台所」



色とりどりの花が咲き誇る植物公園

星のはなし

第9回
「土星」



土星

土星が見頃を迎えている。土星と言えば、その特徴を際立たせているのが、その「環」である。

この土星の環、実は想像できないほどに薄い。望遠鏡で見ることができる環の直径は、およそ30万kmもあるのに対し、厚さはわずか100m程度であるらしい。直径は、地球の20倍以上もあるというのに、厚さは水戸市美術館のシンボルタワーと同じくらいなのだから驚きだ。

さらにもう少し想像しやすいように、125万分の1に縮小したらどうなるかをざっと計算してみる。すると、その直径は約240m、厚さは約0.08mm。ちょうど、東京ドームいっぱい広げたコピー用紙のようなものだ。

地球と土星の間の距離は、平均約12

億km。これを125万分の1に縮小すれば950kmとなる。地球から土星の環を見ているというのは、東京上空に飛ばした直径240mのコピー用紙を、鹿児島県から見ているのと同じくらいということになる。

土星という星に環があるということは、広く知られているが、その姿を実際に望遠鏡で見たことがあるという人は思いのほか少ない。移動天文車の定期観望会をはじめ、全国に400か所もある公開天文台や、イベントなどで行われる観望会では、これからの数か月間は、土星が主役となるはずだ。この機会に自分の目で、その神秘的な姿をじっくりと眺めてみよう。

市総合教育研究所
移動天文車指導員 中川 義通